



文部科学省 SGH(スーパー・グローバル・ハイスクール)事業について

1年生 進学・特進コース SGH オリエントーション：武道場

- 中部大学は ESD(持続可能な開発のための教育)の中部拠点であり、中部大学春日丘高校は「ユネスコスクール」として ESD 学習を実践しています。その ESD 課題探究学習を基に、SGH(スーパーグローバルハイスクール)事業にも指定されています。(指定期間:平成26年~31年)

○ユネスコスクールとは？

ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、「平和や国際的な連携」を実践する学校です。文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールを ESD の推進拠点として位置付けています。本校は2014年10月、パリに本部を置く「ユネスコ」より「ユネスコスクール」の認定を受けました。ユネスコスクールとは、「人権」、「平和」、「人口」、「食糧」、「エネルギー」、「環境」などの観点において、社会問題を考え、社会の「持続性」をテーマにした教育を実践する学校です。



○SGH 事業とは？



スーパーグローバルハイスクール

「急速にグローバル化している世界の現状を踏まえ、将来国際舞台で活躍できる人材を高等学校段階から育成するための教育課程を研究・開発する事業」です。全国で123校の高等学校が SGH の指定を受けており、愛知県では、旭丘、名城大学附属(平成26年度指定)、時習館、名古屋大学教育学部附属、中部大学春日丘(平成27年度指定)の5校が指定校となっています。本校は、「日本のものづくり」を支える製造業の多い中部圏と経済関連の深い「東アジア・東南アジア」を主な対象領域とし、課題探究学習を通じたグローバル人材の育成をする教育カリキュラムの開発に取り組んでいます。

- 春日丘高校の ESD (SGH) は、課題探究型学習を通じて次の6つの資質能力(グローバルコンピテンシー)の育成を目指しています。

- | | |
|--------------|------------------------------|
| ①課題に臨む積極性 | ・・・社会の課題に関心をもつ。 |
| ②協働作業力 | ・・・グループで力を合わせて成果をだす。 |
| ③創造力(問題解決能力) | ・・・問題を解決する力を養う。 |
| ④論理的・批判的思考力 | ・・・相手を納得・感心させる論理的な説明ができる。 |
| ⑤判断力(情報活用能力) | ・・・身の周りの情報(ネット、書籍)をうまく活用できる。 |
| ⑥コミュニケーション能力 | ・・・相手の意見を尊重しつつ自分の意見を発信できる。 |

⇒ 「問題解決能力」と「発信力」のある「グローバル人材」を育成します。

● 進学・特進コースの「グローバル課題研究」の目標

- 1年 ① 国際理解学習（アクティブラーニング）を通じて、「世界市民」の感覚を身に付けます。
 ② 2年時でフィールドワークをする「沖縄」を主な研究対象領域としてESD学習をします。
 そして、課題研究テーマを探究します。
- 2年 ① グループでひとつ研究テーマを持ち、沖縄研修を通じて「研修レポート」を完成させます。
 ② 代表班は「校内ESD学習会」、「SGH全国事業報告会」等で研究成果をグループで発表します。

● 1年進学・特進コース「グローバル課題研究（火曜日7時限目）」の1年間のながれ

	曜	タイトル	学習内容
4月18日	火	SGH年間計画の説明	SGHの目的や2年間の計画、活動内容を説明する。
4月24日	月	第1回全校グローバル講演会	グローバルな世界で活躍している方の講演を聞き、グローバル感覚を涵養する。
4月25日	火	グローバル講演会振り返り	グループ単位で講演会の話の内容を「ふり返り学習」する。どんな内容であったか、何が問題かをまとめる。
5月9日	火	第1回 なぜ参加型で学ぶのか	いつもとは異なる視点から仲間と知り合い、お互いに影響しながら学ぶことの意味を考える。
5月23日	火	第2回 コミュニティとコミュニケーション	コミュニケーションの意味と意義を知り、よりよい関係を築くためのコミュニケーションのポイントをさぐる。
5月30日	火	第3回 世界は多様・人も多様	200余りの地域と国が集まる世界の多様性と人の多様性を実感し、自分の「当たり前」を見直す。
6月13日	火	第4回 なぜ世界について学ぶのか	グローバル化した世界の相互依存に気づき、他国や他者との関わりなしには生きられないことを確認する。
9月5日	火	第5回 世界の現状と課題を把握する	グローバル化した世界の現状をふりかえり、人類共通の課題(グローバルイシュー)について理解する。
9月19日	火	第6回 生き物が生きる土台『環境』について考える	生物の生存を左右する環境が壊れれば人間も影響を受け、またその原因も作りだしていることを理解する。
10月2日	月	第2回全校グローバル講演会	グローバルな世界で活躍している方の講演を聞き、グローバル感覚を涵養する。
10月3日	火	グローバル講演会振り返り	グループ単位で講演会の話の内容を「ふり返り学習」する。どんな内容であったか、何が問題かをまとめる。
10月24日	火	第7回 他人事じゃない『人権』について知る	人が十分に自分を生きるために不可欠な人権とは具体的にどんな権利を言うのか理解する。
10月31日	火	第8回 人権のないところに平和はない、平和のないところに人権はない	消極的平和と積極的平和の定義を知り、戦争がない状態以上の平和についてイメージできるようになる。
11月20日	月	ESD学習会	2年生の代表生徒(進学1班・特進1班)の発表を見て学ぶ
1月16日	火	第9回 人権、環境、平和が守られる持続可能な未来への道のり	持続可能な社会を持続可能な未来につなげるために、必要なもの・役立つことを考える。
1月23日	火	第10回 わたしから始まる未来	課題を解決しながら持続可能な未来を創るために、どう社会に関わって生きるかを各自考える。
1月30日	火	中部大学学部研究	学部の内容を学び、自分の進路を考える。
2月6日	火	ESD学習Ⅱ 加々美先生講演会	沖縄の歴史について、特に沖縄戦を中心に学ぶ。
2月13日	火	ESD学習Ⅲ 沖縄の歴史・沖縄戦	沖縄の文化と環境について、本土との違いに着目して理解する。
2月20日	火	ESD学習Ⅳ 沖縄の文化・環境	沖縄経済の振興のために、観光を含めて何が課題であるのかを理解する。
3月6日	火	ESD学習Ⅴ 沖縄の経済・観光	沖縄経済の振興のために、観光を含めて何が課題であるのかを理解する。

● 春日丘高校のSGH（ESD）課題探究学習では、4つの領域を設けています。

- ★国際開発
- ★ビジネス
- ★医療・福祉
- ★環境・エネルギー

★進学・特進コースは
これに「人権・平和」を加えます

● 昨年度の主な研究テーマ例

- ・海水から真水に変える技術
- ・地下ダムの構造
- ・沖縄の水産業
- ・動植物と環境（固有種と生態調査）
- ・マングローブと生態系
- ・食文化と観光
- ・アメリカが沖縄に及ぼした経済的影響
- ・外国人観光客による経済効果
- ・アメリカ軍がもたらす沖縄の経済効果
- ◎ 沖縄戦でのPTSD（心的外傷後ストレス）

◎のグループは昨年度の代表班に選ばれ、「SGH 全国事業報告会」や「ユネスコスクール ESD 活動成果発表会（外部）」で発表しました。



● 沖縄戦での PTSD（心的外傷後ストレス）の研究内容の概略紹介（研修記より）・領域：「医療福祉」

<現状>

沖縄県では、沖縄戦を経験した高齢者の方たちが、戦争によるPTSD（心的外傷後ストレス障害）で苦しんでいる。PTSDとは、強烈なショック体験、強い精神的ストレスが、こころのダメージとなって、時間がたってからも、その体験に対して強い恐怖を感じるもので、ここでいう強烈なショック体験とは、まさに沖縄戦のことである。沖縄県の高齢者の約43.9%が、自分たちが幼い時に経験した悲惨な出来事によって71年たった今もストレスを抱えている。

<問題点>

PTSDは日常生活に次のような影響をもたらす。

- ①掃除機・車・バイク・花火などの音がこわい。
- ②いつも体を触られている感じがする。
- ③景色が白黒に見える。

これらすべては、当時のガマ（陸軍の野戦病院）の中での幼児処分や、母親が自分のこどもを殺す、親や兄弟が殺される、といった状況を目の当たりにしたことが原因とされる。

<県・市の取組>

県内でPTSDに対応している精神科医がいる。その方によれば、戦争体験者の方たちに「生きていてよかった」と思わせることが大事だということであった。また、那覇市では、子どもたちを含めて、市民全体に「笑顔」をテーマにした市民生活への取組を実施し、日常生活に対する幸福感の向上に努めている。

<班員の考え>

PTSDは、実際に体験した人にしかわからないつらいことだと思う。しかし「体験していないからわからなくて当然」という姿勢ではなく、苦しんでいる方たちがどうしたらもっと気楽に、快適に日常生活を過ごすことができるか、親身になって考えることが大切である。また、このような事実を後世に伝えていくことも大切である。戦争は71年前に終わったのではなく、その被害は今も続き、いつか再び起こらないとは限らないことを私たちは忘れてはいけない。